

きれいな山が着実に 増えてきています

Clean mountains increase

庄原市森づくり事業

農林振興課林業振興係 ☎0824-73-1227

市では、広島県で創設された「ひろしまの森づくり県民税」を財源とする「庄原市森づくり事業」に平成19年度から取り組んでいます。県民税は、県民1人当り年間500円の負担で、県全体では約10億円です。手入れが十分にされていない人工林や里山林の手入れを行うことで、森林の持つ多様な※公益的機能を維持することを目的としています。

公益的 機能とは？

- 土砂災害などを防ぐ
- 水をたくわえる
- きれいな水をつくる
- 空気をきれいにする
- 人に安らぎを与える
- 地球温暖化を防ぐ など

市内の小・中学校の机と椅子が 生まれ変わっています

●机をきれいにしたい

庄原市内の小・中学校で使用されている学習机は、旧JIS規格(縦40cm×横60cm)でメラミン樹脂板のものが多数を占めています。

現在、小・中学校で使用している教科書などは、以前のB5判サイズからA4判の大きなものになり、旧JIS規格の机では使い勝手がよくないため、新JIS規格(縦45cm×横65cm)に対応した机の整備を児童・生徒、先生や保護者の方からも要望されています。

●間伐材の有効活用を

市では森づくり事業などを活用して人工林の間伐を推進しており、そこで発生する間伐材の活用方法を検討する中で、小・中学校の老朽化した机

平成21年度は301鈔を整備しました

●人工林対策

15年以上手入れされていないスギ・ヒノキの人工林の間伐および台風などの自然災害による被害木の整理など

事業面積 260.79鈔
事業費 1億500万円

●里山林対策

災害防止、多様な生物の保全、鳥獣被害防止などを旨として、マツや広葉樹林などの整備や、里山保全活動、森林体験活動、間伐材の活用への支援など

事業面積 41.07鈔
事業費 5130万円

の天板、椅子の背板および座板を間伐材で作製し交換することにした。明るい色合いでフシの少ないヒノキ材を使用し、板の強度を増すため圧縮加工し、表面にペットボトル樹脂を貼り付けています。

平成21年度は、永末、板橋、小奴可、東城、高野小学校などの9校の机と椅子約700セットの改修を行いました。



新しくなった永末小学校の机と椅子

●インタビュー

永末小学校校長
佐々木 妙子 さん



本校では2年生から5年生の机と椅子が改修されました。以前と比べ机の色が落ち着きのある明るい色になりました。子どもや担任教師からも「集中して勉強ができています。天板が大きくなり勉強や作業がしやすい」との声が出ています。本物の木の板目がよい雰囲気を出しており、子どもたちに大切に使うよう話をしています。

実際に利用している5年生からも、「新しくなつてうれしい。広くて使いやすい。板の模様が人とかに見えたりして楽しい。色がすっきりしていて気持ちいいし、明るくなった」などと好評です。



大きな天板が好評



市では今後も引き続き交換を進め、平成23年度までに一部の小・中学校を除き庄原産の間伐材による机・椅子の整備を行う計画です。

今後も間伐材の有効活用を進めていきます。

ひろしま「山の日」が6月6日、県内10ヶ所で実施されました。庄原サテライト会場の、板橋町「板橋さとやま学びの森」では、ステージで板橋小学校の児童たちによる板橋一心太鼓が威勢よく披露され「山の日」がスタート。引き続き青空金管合唱団による演奏が行なわれ、多くのみなさんが演奏に聞き入り、大きな拍手を送っていました。

また、クラフト教室や自然観察などの体験メニューもあり、子どもたちにはポニーやサラブレッドの乗馬体験が人気でした。

総勢250人が思い思いに里山を堪能していました。

「板橋さとやま学びの森」は、平成19年度から庄原市森づくり事業を活用して「板橋さとやま友の会」が行なっている里山の再生活動のフィールドとして整備されてきました。

地域の憩いの場として、また、森林整備や林業体験など子どもから大人まで里山体験ができる場所として、地域はもとより市外からも多くの方が訪れています。

ひろしま「山の日」 庄原サテライト会場



クラフト教室



自然観察教室